

## 雑草侵入をこまめに観察 早めのメンテナンスで長持ちさせる！

- 採草地を「20年にわたり大事に利用すること」が経営目標
- リードカナリーグラス、シバムギなどの地下茎型イネ科雑草の混入割合が増えると牛の嗜好性が低下するためほぼ毎年、いずれかのほ場を“簡易更新”
- 地下茎で繁殖する草種のリードカナリーグラスなどは、侵入後の拡大が非常に速いため“手遅れ”となる前に早めの施工を心がけ



【作溝法】ほ場脇の幅およそ10m部分に「シードマチック」使用（R4年8月18日）

### 【ポイント】

- ①自身で収穫作業を行いながら、ほ場全体を見渡し草種の“移ろい”（雑草の種類や変化）を観察
- ②雑草の多い場所をねらい、1番草収穫後に部分施工
- ③施工時点で、“最も新しい品種”を導入

### 本事例の導入草種・は種量

チモシー	2.5kg/10a
シロクローバ	0.1kg/10a

※施肥量は隣接する2番草追肥と同じ



植生を回復させた部分

左：萌芽期の頃のチモシー（R5年4月21日）／右：2番草（R5年7月24日）